

地域みなさんが学校にかかわるには、 互恵の関係が大切です！

学校・家庭・地域が役割分担をしながら相互に連携を図り、子どもたちの未来を育む支援体制づくりをすすめていく必要があります。また、そうした取組は信頼・協力によって構築される互恵の関係によってつくられることが大切です。

○「両小野学園の学習支援ボランティア」

両小野学園（塩尻市・辰野町中学校組合立両小野中学校）では、ボランティアとしての心構えを守り、参加したいという気持ちがあれば、誰でもボランティアに参加できる仕組みになっています。

学校支援ボランティアの一人は「子どもと1対1で話す機会があります。その時に、子どもは学校生活のこと、家庭のこと、友だちのこと、遊びのことなど、いろいろな話をしてくれます。そういう子どもたちとのコミュニケーションを大切に考えています。時には、家の人や先生方が気付いていないような話もあります」と話してくれました。

子どもにとっても、いろいろな立場の人が関わることは、自分のことをより多く語り聴いてもらえる場、自分のことをより多くの人に認めてもらえる場、すなわち自尊感情が育つ場になっていることがわかります。（教育指導時報NO. 759より一部抜粋）



○「小・中学校の授業を受ける時間がある公民館講座『みんなの合校』」

木曾町三岳地区では町内の小・中学校と公民館がすすめる学社融合の事業を推進しています。

公民館では、地域の方を対象にした「みんなの合校」という年間15時間ほどの講座を開いています。この講座の大きな特徴は、講座の時間の中に、小学校や中学校へ出かけて子どもたちと一緒に普段の授業を受ける時間があることです。

「合校生」には高齢者の方も多いのですが、一緒に授業を受けることで子どもたちから元気をもったり、作業などで子どもの世話をやくことで、生きがいを感じる機会にもなっています。

一方子どもたちは、「合校生」とふれあうことで様々な人の生き方にふれたり、コミュニケーション力を高めたり、また授業においては学習に刺激を受けたりもしています。（教育指導時報NO. 755より一部抜粋）